

カメラが苦手なあなたに贈る
口腔内写真撮影 はじめの一冊 !!



月刊「デンタルハイジーン」別冊
すぐできる! ずっと役立つ!

口腔内写真撮影入門

齋藤善広・吉田彩乃 著

AB判/104頁
定価 3,850 円 (本体 3,500 円 + 税 10%)
医歯薬出版 (2021 年 5 月)

医療法人盟陽会 富谷中央病院
中澤正絵 (歯科衛生士)



まあ! なんてかわいらしい絵本のような表紙! なんともしえない親しみがわく、温みがある表紙に迎えられて、本をめくっていきますと、歯科衛生士の口腔内写真撮影には欠かせない撮影技術のコツのオンパレードです。口腔内写真撮影を始めたばかりの方、いままで苦手意識があって撮影されていなかった方、そもそもカメラがない! という方でもご安心を! カメラの選択方法についてもくわしく解説されています。

そもそも口腔内写真撮影のメリットとは何でしょうか? 歯科診療においては患者さんの口

腔内の現状説明、そして治療方針の相談にも活かれます。一方、患者さんの立場から考えてみても、いままでみたこともない自分のお口の状況をつぶさに観察することでそれまで以上に自分の口腔内に関心をもつことができるのではないのでしょうか。自分がなぜむし歯や歯周病になってしまったのか? その原因と結果について考察するきっかけにもなるでしょう。治療終了後の口腔内写真をみて、きれいになった歯を一生大事に守っていこう! というモチベーションにもつながっていくはずです。

また、歯科医院内でのスタッフ間の情報共有、医療連携のツールにも口腔内写真の役割は大きいです。さらに本別冊にもありますが歯科医師、歯科衛生士が各学会での症例発表や資格申請の際には症例写真添付は必須事項になりますので、初診から現在までを口腔内写真で記録しておくことは各種発表準備の第一歩ともいえるでしょう。

口腔内写真をこれから始めよう、そしてカメラの扱いはちょっと苦手という歯科衛生士にも、まるで先輩歯科衛生士が手取り足取り口腔内写真の撮り方を的確に教えてくれるような親切な図解にあふれています。撮影角度や方向についてもよい例ばかりでなく、失敗しがちな例も提示してあり、普段から口腔内写真を撮っていらっしゃる方にとっても、日々の撮影の見直しにつながることでしょう。

文字も大きくたいへん読みやすいので本を読むのが苦手という方にもお勧めです。そしてカメラの選択基準についても解説してくれているのでこれからカメラを新規購入する、買い替えるという場面においても役立ちます。

明日から口腔内写真を撮りたいすべての歯科衛生士の皆さんにぜひともお勧めしたい一冊です。